鏡像としての阿Q
―“下里巴人”が意味するもの―

大島吉郎（大東文化大学）

2025年7月19日（土）

大東文化大学大学院中国言語文化学専攻・外国語学部中国語学科
共催

第29回国際シンポジウム

はじめに　何を問題とするか

　魯迅は《阿Q正传》を晨報副刊に連載する際、“巴人”のペンネームを使っている。

　魯迅〈《阿Q正传》的成因〉1926には“下里巴人”の“巴人”から採ったと述べるが、管見に基づけば、なぜ“巴人”というペンネームを用いたのか、具体的動機付けが明らかにされ定説となっている論考はないように思われる。

　大島2018では第一章“仿佛思想里有鬼似的”を読み解くことで、《阿Q正传》執筆の意図が辛亥革命に倒れた人々に対する鎮魂の書であることを述べた。

　本発表では、この主張を基に、“下里巴人” を手掛かりに「人々」の人物像を絞り込んで、別の角度から《阿Q正传》執筆の意図に迫りたいと考える。

《阿Q正传》（1921）全九章の章立て

第一章　序
第二章　优胜记略
第三章　续优胜记略
第四章　恋爱的悲剧
第五章　生计问题
第六章　从中兴到末路
第七章　革命
第八章　不准革命
第九章　大团员

魯迅《阿Q正传》執筆の動機について―本研究の仮説

1 存在はするが名前の無い阿Q：存在すら怪しい
2 現実に向き合おうとしない精神勝利法
3 趙家に押し入った強盗の実行犯との罪を着せられる
4 処刑に臨んで最後の一声さえ残せず刑場の露と消えた

写し鏡：逆説としての阿Q

5 実在する歴史上の人物：秋瑾
6 革命党のリーダー・中心人物として革命、社会変革の実現に挑んだ
7 処刑に臨んで絶唱（“秋雨秋風愁煞人”）を残し、歴史（中国革命史）に名を刻むことになる
（《阿Q正传》第一章で魯迅は「名付け」に強いこだわりを見せる）
8 その（気高い）詞を今は誰も歌わない：「陽春白雪」の暗喩
9 辛亥革命の十年後、「何一つ人の世に根本的な変化は起こら（武田泰淳1976：231）」ず、その詞を（ひそかに）歌う（心に刻む）のはこの巴人ただ一人
※　1921年7月、中国共産党設立　　根本的変化：社会革命　精神革命

《阿Q正传》第一章　序

（上略）传的名目很繁多：列传，自传，内传，外传，别传，家传，小传……，而可惜都不合。“列传”么，这一篇并非和许多阔人排在“正史”里；“自传”么，我又并非就是阿Q。说是“外传”，“内传”在那里呢？倘用“内传”，阿Q又决不是神仙。“别传”呢，阿Q实在未曾有大总统上谕宣付国史馆立“本传”——虽说英国正史上并无“博徒列传”，而文豪迭更司也做过《博徒别传》这一部书，但文豪则可，在我辈却不可。其次是“家传”，则我既不知与阿Q是否同宗，也未曾受他子孙的拜托；或“小传”，则阿Q又更无别的“大传”了。总而言之，这一篇也便是“本传”，但从我的文章着想，因为文体卑下，是“引车卖浆者流”所用的话，所以不敢僭称，便从不入三教九流的小说家所谓“闲话休题言归正传”这一句套话里，取出“正传”两个字来，作为名目，即使与古人所撰《书法正传》的“正传”字面上很相混，也顾不得了。（下略）

魯迅と秋瑾の関わり

武田泰淳（1976：216-217）

「魯迅の短篇「薬」は、一九一九年四月、民国八年、大正八年、彼が三十九歳のときに書かれた。

エッセイ「『フェアプレイ』は早すぎる」は、一九二五年十二月、四十五歳のとき。

小品「范愛農」は、一九二六年十一月、四十六歳のとき書かれた。

秋瑾を語るものは、魯迅のこの三篇の文章を読まねばならない。」

※ 《阿Q正传》との関わりについては触れるところが無い。

秋　瑾（1875-1907）

日本留学時（1904-1905）の写真

手には日本刀の小刀を持つ

（画像は百度百科より引用）

《阿Q正传》という物語の時代背景

高橋和巳（1970：370-371）

　魯迅の「阿Ｑ正伝」は言うまでもなく辛亥革命をその物語の背景としている。（中略）だが実は、この辛亥革命は中国の国土を列強に租借されあるいは分割されて恬として恥じなかった満州人の王朝の打倒には成功したが、社会革命、精神革命が伴わず、中国近代化の苦悩のいわば開幕にすぎなかった。（中略）阿Ｑはしがない田舎町の日雇人夫である。もともとその行状を記録されるべき人物ではない。古い体制の側にもそれを打ちたおす運動の側にも指導者はおり、あるいは憎悪され、 あるいは賞賛される人物にはことかかない。もし魯迅がその革命を単に歴史的事件として把え、その場に活躍する英雄豪傑を通じて権力の転換や謀議、あるいは志士の見透しとその 挫折を描くつもりなら、阿Ｑという人物は永遠にこの世に姿をあらわすことはなかったろう。（後略）

《阿Q正传》の評価 (1)

竹内　実（1984:1）

　中国近代文学の名作。作者は魯迅（ろじん)。その日ぐらしの阿クェイとよばれる男がいたが，クェイはどの漢字かわからない。それで阿Qと記す。禿があるのを気にして，他人がランプ，光などと口にすると立腹したが，からかわれ，殴られるのがつれであった。しかしかれは現実の敗北を精神上の勝利に転化させることができた。相手を自分の息子だと考えるのである。さらに自分で自分を罵り，自己卑下では自分が一番だ，一番だからすぐれていると考える。革命の声がきこえてきて，阿Qもうきうきするが，強盗の一味として死刑になる。最後の一刹那，阿Qには見物人の眼が狼の眼にみえた。この中篇小説によって阿Q，阿Q 精神，精神勝利法は中国語として定着，民族性改造のために否定されるべきだと熱っぽく語られる。魯迅の鋭い人間凝視は，中国にかぎらず，民衆一般の思想的原像を描き，世界文学に一つの典型を加えたといえる。初出の新聞連載は1922年2月完結。

《阿Q正传》の評価 (2)

中　裕史（2013:3-4）

　中篇小説。1921(民国10)年12月4日～22年2月12日『晨報』 副刊に連載。巴人(魯迅の筆名)著。 阿Qは名前さえもたない貧しい日雇い農民で， 未荘の人びとから蔑まれていた。しかし，辱めをうけても独自の精神勝利法によって泰然としていた。人に殴られても「息子が父親を殴るのさ」と考えて，逆に自分を殴った相手を低くみることで自らを慰めていたのである。阿Qは趙家の女中呉嫣に言い寄ったことで，村にいられなくなり，まちに行って泥棒の手先となる。しばらくして村に戻ると， まもなく辛亥革命がおこり，辮髪を頭の上に巻き上げるなど村中が大騒ぎとなった。阿Qも革命党の仲間入りをしようとするが，趙家の若旦那に追い払われてしまう。その後，趙家で強盗事件がおきると，阿Qはその犯人にしたてあげられた挙げ句に銃殺された。

　作者は，阿Qの悲劇によって，現実を直視しようとしない中国人の態度を批判し，その国民性の変革なくしては，真の革命はありえないと訴えている。

※　その「国民性」とは

《阿Q正传》の評価 (3)

尾崎文昭（2017：380-381）

「魯迅の、奴隷的心性を告発した小説『阿Q正伝』は国民性の改造を呼びかけたものとして広く反響をよび、海外でも高く評価された。（後略）

阿Qの人物像

1 男性
2 名前未定：趙姓を主張するも趙家は否定、拒絶
3 年齢不詳：趙家に住み込みで働く呉媽より年長か
4 未荘の土谷祠に寝泊まり・住所不定
5 出自不明
6 職業不定
7 前歴不詳
8 前科不詳：県城に行き泥棒の手先（見張り役）をして分け前に与り一時財を成す
9 未婚：結婚歴無し　尼寺の尼僧に“断子絶孫的阿Q”と罵声を浴びせられる（第3章）
10 精神勝利法を生き方の指針とする
11 革命党への入党を断られる
12 盗賊の一味との罪を着せられ県城の広場で刑死
13 刑場に向かう途中、辞世の句を歌うこともなく“鬼”となってしまう

《阿Q正传》第九章　末尾

至于舆论，在未庄是无异议，自然都说阿Q坏，被枪毙便是他的坏的证据：不坏又何至于被枪毙呢？而城里的舆论却不佳，他们多半不满足，以为枪毙并无杀头这般好看；而且那是怎样的一个可笑的死囚呵，游了那么久的街，竟没有唱一句戏：他们白跟一趟了。

（一九二一年十二月）

秋瑾の絶命詞

郭延礼（1983:113-114）

五日，贵福命山阴知县李钟岳提审，秋瑾“坚不吐供”，只书“秋雨秋风愁煞人”七字。贵福以李氏不肯用刑，又改派其幕友余某严讯，瑾仍只云“论说稿是我所做，日记手摺亦是我物，革命党之事不必多问”，咬牙闭目，忍受酷刑。（中略）

六日（七月十五日）晨，（中略），秋瑾乃于是日晨四时英勇就义于绍兴古轩亭口，（下略）。

※ 語順を入れ替えた“秋风秋雨愁煞人”は初期の資料には見られないとされる

《阿Q正传》の作者名“巴人”について

鲁迅〈《阿Q正传》的成因〉（p.198-199）

（前略）阿Q的影像，在我心目中似乎确已有了好几年，但我一向毫无写他出来的意思。经这一提，忽然想起来了，晚上便写了一点,就是第一章：序。因为要切“开心话”这题目，就胡乱加上些不必有的滑稽，其实在全篇里也是不相称的。署名是“巴人”，取“下里巴人”，并不高雅的意思。谁料这署名又闯了祸了，但我却一向不知道，今年在《现代评论》上看见涵庐（即高一涵）的《闲话》才知道的。（以下略）

注７　“下里巴人”

古代楚国的通俗歌曲。《文选》卷四十五宋玉《对楚王问》：“客有歌于郢中者，其始曰下里巴人， 国中属而和者数千人；……其为阳春白雪，国中属而和者，不过数十人。”

《文選》巻四五・対問・對楚王問一首

楚襄王问于宋玉曰：“先生其有遗行与？何士民众庶不誉之甚也？”宋玉对曰：“唯，然有之。愿大王宽其罪，使得毕其辞。客有歌于郢中者，其始曰《下里》、《巴人》，国中属而和者数千人；其为《阳阿》、《薤露》，国中属而和者数百人；其为《阳春》、《白雪》，国中属而和者，不过数十人：引商刻羽，杂以流徵，国中属而和者，不过数人而已。是其曲弥高，其和弥寡。(中略)夫世俗之民，又安知臣之所为哉？”

竹田　晃訳（1998:414-415）

楚の襄王が宋玉に尋ねて言う、「（中略）遊説の士で都城の内に歌をうたい歩く者がおりました。最初に『下里巴人』の歌をうたいますと、続けて和する者は数千人でありました。『陽阿薤露』の歌をうたいますと、続けて和する者は数百人でありました。『陽春白雪』の歌をうたいますと、続けて和する者は数十人に過ぎませんでした。商羽の音楽を厳かにうたい流徵を交えますと、続けて和する者は数人に過ぎませんでした。これはその曲が高尚になればなるほど、それに和する者はそれに応じて少なくなるのであります。（中略）そもそも世俗の人々が、どして私の行為を理解することが出来るでありましょう」と。

《文選》巻四五・對問類・對楚王問一首　注

竹田　晃（1998:415）

〇郢　楚の都。今の湖北省江陵の北東。〇下里　楚の俗曲の名。下里はもと郷曲里閭のこと。〇巴人　曲の名。『抱朴子』広喩に、「白雪の九成を聆き、然る後巴人の極陋を悟る」とある。〇陽春白雪　『淮南子』俶真に、「耳に白雪、清角の声を聴くも、其の神を乱す能わず」、注に、「白雪は師曠の奏する所の、太一五弦の琴の楽曲、神物為に下る者なり。清角は商声なり」とある。春秋時代、師曠の作と伝えられる。『楽府詩集』巻五十七。

小尾郊一（1976：184-185）

【下里巴人】下等な歌曲の名。俗な歌。陸機の「文の賦」（『文選』巻十七）に「下里を白雪に綴ぬ」とあり、李善は「此の庸音を以て、彼の嘉句に偶ぬるは、譬えば下里の鄙曲を以て、白雪の高唱に綴ぬるがごとし」という。「巴人」とは、巴人の歌う調子の意。巴は四川省巴県。馬融の「長笛の賦」（『文選』巻十八）に「下は制を延露・巴人に采る」とある。

【陽春白雪】かなり高尚な楽曲。馬融の「長笛の賦」に「中は度を白雪・淥水に取る」とある。

魯迅と秋瑾の接点

武田泰淳（1973：239）

「東京における魯迅と秋瑾の接触について、周作人「魯迅の故家」に、見のがしがたい記録が一つある。

「秋瑾は魯迅と同じころ日本に留学していた。清国留学生取締規則が発表された後、留学生はこぞって反対運動を起し、秋瑾が先頭になって全員帰国を主張した。年輩の留学生は、取締りという言葉は決してそう悪い意味ではないことを知っていたから、賛成しない人が多かった。それでこの人たちは、留学生会館で秋瑾に死刑を宣告された。魯迅や許寿裳もその中にはいっていた。魯迅は彼女が一ふりの短刀をテーブルの上になげつけて、威嚇したことも目撃している。」（周遐寿「魯迅の故家」、松枝茂夫、今村与志雄訳）」

魯迅と秋瑾の略年譜

魯　迅	秋　瑾
	1875　福建省南部に生まれる 原籍は紹興府山陰県
1881　紹興に生まれる	
	1896　王子芳と結婚
	1897　第一子元徳を出産
	1901　第二子桂芬を出産
1902　日本へ留学	
	190405　日本へ単身留学
	190510　《取締清韩留日学生规则》
	190512　日本から帰国
	190610　紹興へ赴き大通学校に住む
	190701　大通学校の校務責任者
	190706　逮捕、処刑

190710　《民報》第17号「祭徐錫麟、陳伯平、秋瑾文」章太炎・劉光漢・張継等

1909　帰国

19111010　武昌蜂起

191104　上海の改良小説社より《六月霜》上下2冊刊行

192112　《阿Q正传》執筆開始

192202　連載終了

おわりに

大島（2018：96）

「魯迅は個別に目標領域となる人物を記すことはしていないが、辛亥革命以前の革命運動に身を投じた人物、例えば安徽省安慶での蜂起に失敗し非業の死を遂げた徐錫麟(1873－1907)と、これに連座して逮捕、処刑された秋瑾(1875－1907)の二人を想定することが出来る。ひいては、辛亥革命、中華民国建国以後の革命運動に身を捧げ亡くなった多くの人々を「不朽の人」として慰撫し、物語の中にメタファーとして深く刻み込む（「不朽の言とする」）ことを一つの目的として完成させたのが、《阿Q正传》なのではなかろうか。」

本研究の新しい視点：《阿Q正伝》執筆の意図は、同郷の女性革命家秋瑾に対する鎮魂が隠されたテーマの一つであると同時に、社会革命、精神革命が実現されない現実に対する慚愧の念を込めた作品である、と考えることができるのではないか。

余論

第一章：“阿Q”の“Q”を魯迅はQueiと不自然な読み方を提示し“阿貴”、“阿桂”などの名前、ひいては“阿鬼”を想起させようとする。

英語の“Q”の発音は［kjuː］であり、“阿Q”は［æː kjuː ］と読むのがむしろ自然であり、“秋”の訓読「あき」に近い。

Cf. queue ［kjuː］pigtail,Manchu pigtail

“巴人”についてのアナロジーは「魯迅・ロジン」と関連付けて考えることが出来よう。すなわち（「偉人・イジン」）、「魯迅・ロジン」、巴人・ハジン」という「言葉遊び」の要素を指摘することが出来る。

余論

現代文学における用例

【下里巴人】

(1) 下里巴人的吃食一旦蜕变成特色风味，也就可以登得大雅之堂了。(崔岱远2021:247)

【阳春白雪】

(2) 不过这么一来，客观上倒让本来有些阳春白雪的京戏一下子融在泥土里，迅速在下层市民中得以普及。(崔岱远2023:252)

引用資料

《吶喊》1979 人民文学出版社
《六月霜》1958 上海文化出版社
《六月霜》1959 中華書局
《京范儿(增订本)》崔岱远 2023 生活·讀書·新知三联出版社
《吃货辞典(增订本)》崔岱远 2021 商务印书馆

参考文献

臼井武夫1981『北京追憶　城壁ありしころ』　東方書店

大島吉郎2017「実証的研究における原典の扱いについて」 大東文化大学『外国語学会誌』第47号：1-3

大島吉郎2018「循環する物語―“彷彿思想里有鬼似的”に関する一考察―」　大東文化大学『中国言語文化学研究』第7号：88-108

大島吉郎2024「《六月霜》における言語的特徴について」　大東文化大学『語学教育研究論叢』第41号：1-15

尾崎文昭2017「魯迅と周作人―近代中国の尊厳と恥辱」　『中国文化事典』丸善：380-381

小尾郊一1976『文選（文章編）六　全釈漢文大系第31巻』　集英社

周遐壽著、松枝茂夫・今村与志雄訳1955『魯迅の故家』　筑摩書房

高橋和己1970「「阿Q正伝」について」『高橋和巳作品集7　エッセイ集1（思想篇）』1970河出書房新社

高橋和己1973『吶喊』　中央公論社

竹内　実1984「阿Q正伝」　日原利国編『中国思想辞典』研文出版：1

竹田　晃1998『文選（文章篇）中　新釈漢文大系第83巻』　明治書院

武田泰淳1976『秋風秋雨人を愁殺す』　筑摩書房

竹中憲一1985『北京における魯迅の足跡』　不二出版

鄧　雲郷著、井口晃・杉本達夫訳1986『北京の風物　民国初期』　東方書店
中　裕史2013「阿Q正伝」尾崎雄二郎・竺沙雅章・戸川芳郎編『中国文化史事典』大修館書店：3-4
丸山　昇1984「魯迅」　日原利国編『中国思想辞典』研文出版：449
山崎厚子2007『秋瑾　火焔の女』　河出書房新社
山崎朋子1995「海を越えてきた中国女士留学生　秋瑾と下田歌子」　山崎朋子著『アジア女性交流史　明治・大正期篇』筑摩書房：91-110

陈象恭编著1983《秋瑾年谱及传记资料》 中华书局
郭长海·李亚彬编著1987 《秋瑾事迹研究》 东北师范大学出版社
郭延礼1983《秋瑾年谱》 齐鲁书社
魯　迅1926《阿Q正传》的成因 《华盖集续集》1980人民文学出版社：192-200
孙元超编1981《辛亥革命四烈士年谱》 书目文献出版社
闻立鼎译、永田圭介著《秋瑾 竞雄女侠传》 群言出版社
夏　衍1979《秋瑾不朽》 《夏衍论创作》1982上海文艺出版社：15-18
薛绥之编1986《鲁迅杂文辞典》 山东教育出版社
周遐壽1953《秋瑾》《魯迅的故家》 1953上海出版公司：298-299

ご清聴ありがとうございました